

(別紙2)

国立障害者リハビリテーションセンター学院 学校関係者評価委員会  
報告

各評価項目について

1 教育理念・目的・人材育成像 ○入学者の学力等の環境を踏まえつつ、「臨床のみならず、研究・教育分野を先導できる人材を養成」に向け取り組んでいただきたい。 ○病院や研究所がある貴センターの強みを活かした人材養成を常に心がけていただきたい。
2 学院運営 ○業務効率化に関する具体的な課題として講師依頼文書の作成があげられているが、他の事項も含めて業務効率化について検討願いたい。
3 教育活動 なし。
4 学修成果 ○手話通訳学科の技能認定試験の合格率の要因が基礎学力の差異にあるということだが、そのことを踏まえた入学の受け入れ及びカリキュラムのあり方、国の養成機関のあり方も含めて検討願いたい。
5 学生支援 ○手話通訳学科の技能認定試験の合否の影響について具体的な内容を説明できるよう検討願いたい。
6 教育環境 なし

<p>7 学生の受け入れ募集</p> <p>○手話通訳というものが職業として認知されていないという実情がある等とのことだが、そのような社会状況をふまえつつ、募集人員や学科のあり方等を検討願いたい。</p> <p>○オープンキャンパス参加者の動態について、実際に入学した学生については動態を追えるのではないかと思う。オープンキャンパス参加後に入学した学生の方がモチベーションが高いという情報や、オープンキャンパスを開催した時期で入学者が変わるという情報があれば、より戦略が立てやすいと思う。逆にオープンキャンパスの参加が入学後の学業と関係なければあまり効果がないと考える。</p> <p>オープンキャンパスを毎月のようにやっているの、エスカレートしすぎるのを危惧している。学生や教官にも負担になっているのではないか。</p>
<p>8 法令等の遵守</p> <p>なし。</p>
<p>9 社会貢献・地域貢献</p> <p>○手話通訳学科と義肢装具学科に関する具体的な地域貢献や社会貢献は把握できなかったが、取組の充実をお願いしたい。</p>
<p>10 全体を通して</p> <p>○手話通訳学科と義肢装具学科それぞれ全国的な養成状況や社会的なニーズ等を踏まえながら養成のあり方については日頃より検討いただき、これまで以上に外部の人間にわかりやすく運営状況を説明できるよう留意されたい。</p> <p>○義肢装具学科等の非常にアクティブな様子が伺えた。その一方で他学科の存在感が薄いと言うことも見えてきた。</p>
<p>11 その他（ご自由に記載してください）</p> <p>○対面で委員会が開催できなかったのは残念。そのため、今回は回答内容を踏まえて気になった点について意見を述べさせていただいた。</p> <p>○社会のニーズがあるからこそ、各学科の存在意義があると思うので、社会ニーズに合わせた教育成果の評価が各学科に必要ではないか。また、取り組みを評価するだけでなく、取り組んだ結果どうなったかを評価する場になればよいと思う。次年度以降に期待する。</p>